

ミクロ経済学集中演習講座

経済数学マニュアル【ミクロ篇】

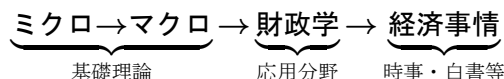
講座名	開講日時	担当講師
ミクロ経済学集中演習講座 経済数学マニュアル 【ミクロ篇】	8/20 8/24 8/27 8/31 9/3 9/10 (全6回) 前半講義：講義編 (15:00-18:00) 後半講義：ゼミ編 (18:30-21:30)	藤井善仁 (Wセミナー専任講師)

◆ 講座の特徴

- 「効率的」かつ「大量」に問題演習がしたい方。
⇒ 過去問演習を通じて「実践力」を養成します。
- 夏の間に「問題演習」を通じて、ミクロ経済学を「完成」させたい方。
⇒ 数値計算を中心に、ミクロ経済学のほぼ全分野を細かくフォローします。
- 一通りミクロを学習したが、問題演習に不安を感じている方。
⇒ 一貫した「解法条件」を適用することで「応用力」を養成します。
⇒ 問題を「解く」ことで試験で大敵となる「わかったつもり」を矯正します。
- 各種公務員試験の出題パターンを知りたい方。
⇒ 本試験問題を集中的かつ大量に演習することで、自然に「傾向と対策」が行えます。
⇒ 公務員試験で、過去の本試験問題が繰り返し出題されていることが実感できます。
- 講義内容を完全に理解できるまで個別に質問をしたい方。
⇒ 「講義編」とは別に「ゼミ編」で個別質問に完全対応致します。
⇒ 毎回の講義後、担当講師と合格者スタッフ(LA)が個別相談に応じます。

◆ 講義目的

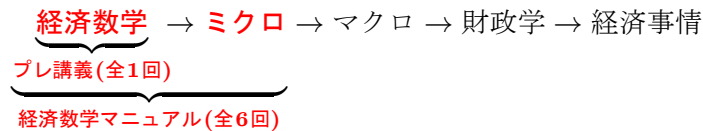
各種公務員試験で出題される経済系科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、経済事情に大別されますが、通常のカリキュラム(学習順序)が、



となっていることは偶然ではなく、この順番で学ぶ格別の意味があります。つまり、マクロはミクロの内容を前提とし、財政学はミクロとマクロの内容を前提とし、経済事情はミクロ、マクロ、財政学の全体系を前提にして、議論が構築されているということです。

換言すると、経済学の全体像を俯瞰し、現実経済の動向を把握するための最初の一步となる間口は狭く限定的であり、まずはミクロ経済学に明るくならなければ、志中途にして頓挫してしまうことを意味しております。

ところが、ミクロ経済学の導入部分においての数学的素養は人によりかなりの程度、異なっており、「ゼロ」時点を特定化するのが困難となります。経済学で数学を利用する理由はそれが複雑多様な社会経済を分析するのに有用であるからですが、初学者やこれから経済学を初めて学ぶ方にとって、参入障壁が高いことも事実であります。したがって、本講座では、数学アレルギーがある初学者に十分に配慮した形で



という全体像のうち、入門経済数学レベル(初歩的な計算テクニックと図解の理解)とミクロ経済学の理論部分を数値計算を中心にモデル(本試験問題)を解きながら実践的に講義を進めていきます。

経済数学を「数学」それ自体として学びながら計算テクニックだけを習得したとしても、それだけではすぐに忘れてしまいます。経済学で出てくる数式には何らかの「意味」がある(この「意味」を考えることが授業の眼目です)ので、多くのモデルを「解く」ことで、数学を使う意味を理解することが重要となります(数多くの問題を解いていくうちに、「意味」も自然にわかってくるものです)。

一般的に誤解が多い点ですが、数学にとって最も必要なのは「知識」や「センス」ではなく「経験」です(その点、スポーツに似ています)。したがって、本講座では実際に出題された各種公務員試験問題を教材として、初歩的計算テクニックと経済学のロジックを同時に学ぶことができます。

◆ 講義の進め方

「講義編」では、書画カメラを使用し、詳細なレジュメ(セクションの藤井版解答例)を配布した上で、初歩的計算テクニックや経済理論の説明、問題の解法を中心に進めます。常に初学者を意識し、計算過程は愚直にかつ説明は懇切丁寧を極めたものとなります。

「ゼミ編」では、「講義編」での不明点を個別に担当講師、およびLA(合格者スタッフ)から「個人指導」を受けることができます。質問等が特にない場合は、講義編の3時間で帰宅しても何ら問題はありません。ゼミ編はあくまで自由参加型の補習時間となります。ただし、合格者スタッフが何名か常駐し、直接、様々な情報を得る上でも、貴重な時間となるかと思うので、積極的に利用して下さい。

◆ 講義計画

	講 義 内 容	担当講師/LA
【第1回】 消費者理論 (セクション 第1章)	効用最大化, 補償所得, 2部料金制, 需要の所得弾力性 財の分類, 需要曲線, 需要量の変化率, 需要の価格弾力性 異時点間消費, 労働供給の決定	講師: 藤井善仁 LA: TBA (後日発表)
【第2回】 生産者理論 (セクション 第2章)	コブ・ダグラス型生産関数, 規模に関する収穫, 代替の弾力性 生産関数と利潤最大化, 最適生産, 等費用曲線と利潤最大化 損益分岐点と操業停止点, 短期費用曲線と長期費用曲線, 長期均衡	講師: 藤井善仁 LA: TBA (後日発表)
【第3回】 部分均衡分析 (セクション 第3章)	市場均衡と需要の価格弾力性, 余剰分析, 課税の影響	講師: 藤井善仁 LA: TBA (後日発表)
【第4回-第5回】 不完全競争市場 (セクション 第5章)	独占企業の利潤最大化, ラーナーの独占度, 独占総合, 差別価格 クールノー・モデル, シュタッケルベルグ・モデル ベルトラン・モデル, 屈折需要曲線, 参入阻止価格 売上最大化仮説, 利潤最大化と売上高最大化, 需要独占 双方独占, カルテル(共謀), 独占的競争, 不完全競争市場総合	講師: 藤井善仁 LA: TBA (後日発表)
【第6回】 市場の失敗 (セクション 第6章) ^{脚注1} 国際貿易理論 (セクション 第8章) その他のトピック	外部性, コースの定理, 費用逡減産業, 不確実性, 情報の非対称性 比較生産費説, 関税政策	講師: 藤井善仁 LA: TBA (後日発表)

脚注1 第6章「公共財」については**経済数学マニュアル【マクロ篇】**で扱うこととする。

◆ 使用教材

- (1) 過去問セクション⑨ 経済原論Ⅰ ミクロ(早稲田経営出版)
- (2) 講義レジュメ(セクションの藤井版解答例)

◆ 担当講師との連絡方法

講義前までは、講座紹介のページに「電子受講相談コーナー」があるので、担当講師に直接、問い合わせたい方は該当バナーをクリックして下さい。公務員事務局より、担当講師に照会内容を転送した上で、担当講師自ら回答致します。

あるいは、担当講師のブログ上からメッセージを送信して下さい。

【公務員試験で学ぶ】経済学演習教室－blog篇－

<http://ameblo.jp/w-fujii/>

開講日に担当講師のメールアドレスをアナウンスするので、講義後は担当講師に直接、質問メールを送信することが可能となります。

◆ 担当講師からのコメント

経済学に限らず、凡百の学問というのは「入口」があるようで、ないようで、入ったところが結局は「入口」である訳であるが、人によってその「入口」が必ずしもゼロという位置ではないことも多く、これが面倒であり、途方に暮れさせる原因となります。真面目な人ほど最初は困るのもまた学問かと思えます。

経験上、初学者が入門段階で「数学」上の問題でつまづき、それを「経済学」のすべてと思ってしまいがちですが、それは単に経済学の「入口」部分を数学により封じ込められていることから起因する誤解に過ぎません。たとえば、優れたスポーツ選手になるための必要条件として、「筋力」が必要であることは論を待ちませんが、「筋力」があるだけでは、優れたスポーツ選手になることができないように、「数学的基礎(筋力)」と「経済理論」は密接不可分な存在です。したがって本講座では、初学者に十分な教育的配慮をした上で、初歩的数学テクニック(筋力)と経済理論(マニュアル)をバランスよく学んでまいります。

講座名に「マニュアル」とありますが、この言葉の背後には応用力が身につく「解法」を一緒に学んでいくという、本質的な内容が多分に含まれており、多くの本試験問題を実践的に解いていくことで、本物の「実力」を研磨していきます。それが、経済学の問題を解く「基礎力＝筋力」作りの最も有効な方法であり、その実践過程で経済学の「入口」が必ず開かれます。その後は、たやすく経済学の世界に出入り出来るようになり、自力で問題を定式化し、「解く」ことができるようになります。その達成感を「無料プレ講座」に参加して、是非とも実感して下さい(丁)。

